

議長（中田文夫君） 日程第1 一般質問を行います。

通告順に発言を許します。

8番 堀田一俊君。

8番（堀田一俊君） 私は、通告に基づきまして、最近の日米軍事同盟強化の動きに非常に実は怖さを感じております。村長の見解をお伺いしたいと思います。

舟橋村に関係のある佐渡龍己さん、この方は駅前の佐渡さんの縁戚に当たりますが、自衛隊を退職後、スリランカ日本大使館、イラク大使館勤務などで、テロリズムについて何冊か本を出しておられます。その中から2冊ほど読ませていただきましたが、結論的には、イラクならイラク人たちの考え、希望を理解した援助をすべきであること。イラクの各国大使館は、テロ攻撃からの防衛にそれぞれの国の軍隊があたっておりますが、日本の大使館はイラクの警備会社に依頼をしているとのこと。そのためには、相互の信頼関係が大事でありまして、イラクの人たちの気持ちを理解し、日常的な交流、情報交換を心がけ、大使館防衛訓練も実際に行っておられるということでありまして、それらがいずれも成功しておりまして、日本の大使館に対する攻撃というのは、いまだにないわけでありまして。

いわゆる戦後60年も過ぎますと、戦争というものの悲惨さが忘れ去られるのか、未経験者によりますと、かえって何かそれが格好よくでも見えるのか、日本国憲法前文の「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないようにすることを決意し」の文言や、第9条の「戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない」との文言が、自民党結党50年記念大会の憲法改正案から消え去り、また自民党の結党時の綱領にあった「福祉国家完成を期す」「駐留外国軍隊の撤退に備える」というような文言もなくなっております。

私は、愛国心を言うならば、まずアメリカ占領軍の撤退を第一に求めるべきであると思っております。

かつて日本の指導者は無謀にもアメリカと戦争をし、240万人の戦死者、しかもその中の6割が餓死者だった。広島、長崎の原爆、東京、富山など全国の都市や沖縄など、一般市民並びに輸送船の船員も20万人ほど、いわゆる100万人近くの一般市民が殺されております。これら非戦闘員を虐殺することは、国際法の違反でもあります。また、満州において、あるいはサハリンにおいて、一般市民が置き去りにされ、軍が真っ先に逃げ帰っております。

考えてみますと、一般の市民には、その土地に生活があり、家族があるわけでありま  
すから、簡単に引き揚げてこれないのですね。日本の戦争指導部がこの情勢判断をすれ  
ば、それらのことは既にわかっていたことだと思います。その責任というのは、やはり  
今日なお徹底的に追及されるべきであると思います。

軍隊というのは、イラクのアメリカ軍も同じであります。日本の軍隊でも、「上官の  
命令は天皇の命令」で逆らえず、リンチ、暴力というものが内部では横行しておりまし  
て、たくさんの犠牲者を出しています。今でも自衛隊の中の暴力、自殺者を聞きます。  
軍隊の駐屯とは、事件はなかなか切れません。

だから、今日、日米軍事同盟強化に全国の米軍の駐留地で反対運動が起きているので  
す。アメリカも日本も、「台湾は中国の一部である」と認めているのですから、アメリカ  
の手先になる必要は少しもないと思います。ましてや、アメリカの「生物進化論を認め  
ない」というようなキリスト教原理主義に追随して、その価値観を世界中に押しつけよ  
うとするような行動には反対をすべきだと思います。

ニュージーランドでは、医療費、教育費は無料だそうです。北欧にもそんな国があり  
ます。国のあり方にはいろいろありますが、高齢化、少子化の進む日本では、なおさら  
日本国憲法の精神を世界やアジアの国々に広げるべく、「核兵器廃絶」「大小武器輸出の  
禁止」「軍事費をいわゆる福祉に回す」という平和の運動を外交の基本として、あらゆる  
機会に政治家は、それこそそのことに命をささげるべきだと思います。

ましてや、日本には今日、原子力発電所がたくさんあります。戦争する環境はありま  
せん。また、さきの大戦で見ましても、戦争によって何も解決しておりません。

宇宙飛行士の野口さんの言う「青い地球を守る」。私たちが村民の幸せを守るというこ  
とに立ちますと、軍国主義復活傾向は、百害あって一利なしであります。戦争によって  
一部に大変もうけておる人たちもおるわけでありまして、そういうことを考えますと、  
本当にばかばかしいことだと思っております。

そして今日、防衛庁は防衛省に昇格するということでもありますけれども、軍の発言力  
が増すということでありましょう。私の年代には、最近の我が国の傾向にかつての軍国  
主義時代の到来を感じ、恐怖を感じる次第であります。村長のお考えをお伺いしたいと  
思っております。

以上であります。

議長（中田文夫君） 金森村長。

村長（金森勝雄君） 8番堀田議員さんの御質問に私の見解をお答えさせていただきたいと思います。

ただいま堀田議員さんから、イラクへの自衛隊派遣が1年延長されたこと等を踏まえ、戦争経験者の立場から、最近、日米軍事同盟の強化の動きがある。あるいはまた平和憲法第9条の条項文の改正も政府・与党間で論議が展開されているに至っている。こうして見ると、戦前に戻るのではないかと大変危惧と不安を感じているということで、客観的に時局をとらえた御持論をお聞かせいただいたわけですが、戦争未経験者である私は、この内容につきまして大変感銘を受けておる次第でございます。

私は常々、それぞれの国は、国民が自らの力で民主的に国家を築き上げることが基本であると認識している次第でございます。しかしながら、現在、国連加盟国は191あるわけですが、その中には、今も貧困などで民族紛争が勃発している国があるなど、加盟国がすべて安定した国家になっているとも言えない現実であります。

私は、ことしの1月から村政を預らせていただいているわけですが、今後とも村民の幸せを第一に考え、堀田議員さんと同様に、戦争のない世界、貧困のない世界づくりに貢献することが我が国日本の最もやるべき姿であろうと思っております。これが私の堀田議員さんの質問に対する今の偽らざる見解であるということをお聞きいただきまして、答弁にかえさせていただきます。